令和８年度授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）２７高松小学校

	課題分析	授業改善策
国語	●語彙や新出漢字などの基礎的な内容の定着に課題が見られる。文を正しく読み、自分の考えを表現する力を身に付けさせるため、基礎的な知識・技能を確実に定着させる必要がある。 ●自分の伝えたいことを整理し、順序に気を付けて考えをまとめ、書いたり話したりする力を身に付けさせる必要がある。そのため、自分の考えを表現する機会を意図的に設定するなど、指導方法を工夫する必要がある。 ●説明的な文章を読み、筆者の主張を捉えるとともに、それに対する自分の考えをもち、根拠を明確にして表現する力を育成する必要がある。そのため、系統的かつ計画的に説明的な文章を読む指導を行う必要がある。	○日常的な読書活動や音読の学習を通して、文字や言葉に触れる機会を増やすとともに、新出漢字の習得を徹底することで、豊かな語彙や言語感覚の素地を養う。 ○日記や短作文、視写などの学習を通して書く経験を積ませるとともに、発表や話合いの機会を活用し、自分の考えとその理由を述べることを意識させる。 ○低学年から段階的に説明的な文章を読む指導を行い、ノート指導を充実させる。文章を正しく読み、自分の考えを表現する経験を積ませることで、他教科等の学習にも生かせる表現力を育成する。
社会	●地域社会について、地域の人々や社会とのつながりを自分たちの生活と関連付けて捉える力を育成する必要がある。そのため、地域社会から学ぶ体験的な学習を充実させ、学習したことを自分たちの生活と結び付けて考えられるようにする必要がある。 ●表やグラフなどの資料から必要な情報を読み取る基本的な技能や、読み取った情報を基に考える思考力・判断力を育成する必要がある。	○年間指導計画と関連させながら、地域の特色やそれを支える人々の存在、地域社会と自分たちの生活とのつながりについて考える学習を設定する。学習後の振り返りを充実させ、学んだことを自分たちの生活と関連付けて捉えられるようにする。 ○電子黒板やICT機器、タブレット端末を活用し、表やグラフの具体的な数値やその変化に着目して、そこからどのようなことが考えられるかを検討する場面を意図的に設定することで、資料を読み取る技能や思考力・判断力を育成する。
算数	●数と計算領域では、繰り上がり・繰り下がりのあるたし算・ひき算、小数のかけ算・わり算、四捨五入に課題が見られる。 ●量と測定領域では、時間の単位換算、複合図形の求積、単位量当たりの大きさ、速さに課題が見られる。 ●図形領域では、図形や図形の構成要素の名称の理解や、図形の性質を活用した作図に課題が見られる。 ●数量関係領域では、百分率、二量の関係を図に表すこと、資料の分類・整理に課題が見られる。 ●各領域の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるとともに、既習事項を活用して問題を解決する力を育成する必要がある。そのため、児童のつまずきを把握し、個々の理解度に応じた指導を行う必要がある。	○学年ごとに児童の学習状況や課題を明らかにし、教員間で共有する。課題となっている内容については、基礎的・基本的な学習内容に立ち戻って指導するとともに、既習単元については、関連する単元や問題の中で再指導する。 ○習熟度別少人数指導を生かし、児童一人一人の理解度や学習状況に応じた指導を工夫する。 ○半具体物、数直線、図などの教材や電子黒板等のICT機器を活用し、数量や図形の関係を視覚的に捉えられるようにすることで、実感を伴った理解につなげる。 ○疑問や考えを出し合い、課題を解決するための話合い活動を充実させるなど、学び合いの場面を積極的に取り入れる。自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりする活動を通して、数学的な思考力・判断力・表現力を育成する。
理科	●四季の自然について継続的に観察する力を育成するため、計画的に自然と関わる学習を行う必要がある。また、生活科や総合的な学習の時間との関連を図り、自然や生命について学んだことを他の学習や生活と関連付けて捉えられるようにする必要がある。 ●観察・実験の基本的な技能や、器具の名称・操作方法の定着に課題がある。 ●科学的に問題を解決する力を育成するため、	○農園を整備・活用するとともに、総合的な学習の時間と関連させながら、「キャベツ」「ダイコン」「ツルレイシ」「ヘチマ」等の栽培活動や観察を行い、継続的に自然や生命と関わる学習を進める。 ○観察や実験を繰り返し行い、器具の名称や操作方法を確実に身に付けられるよう指導することで、観察・実験の技能を高める。 ○児童とともに問題を設定して学習の見通しをもたせるとともに、観察・実験の結果をグラフや表に整理し、それらを

	問題を見いだし、予想や仮説をもち、観察・実験の結果を基に考察する学習を充実させる必要がある。また、根拠を示しながら自分の考えを表現する力を育成する必要がある。	基に考察する学習場面を設定する。考察したことについて、根拠を示しながら自分の考えを説明する活動を充実させる。 ○電子黒板やタブレット端末を効果的に活用し、観察・実験の結果の共有や記録、比較・整理など、思考を深めるための学習に生かす。
生活	●身の回りの動植物に対する興味・関心を高め、具体的な体験を通して気付きの質を高める学習を充実させる必要がある。 ●友達や身近な人と繰り返し関わりながら学習し、自分の思いや考えを積極的に表現する力を育成する必要がある。	○生き物の飼育や、アサガオ・チューリップ・ミニトマトなどの野菜や植物の栽培を行い、児童が継続的・体験的に対象と関わることができるようにする。特に1学期中に生き物の飼育を行うことで、生命や成長への関心を高める。 ○校外学習や地域の畑を生かした活動を意図的に設定し、地域と連携しながら継続的に関わる機会を増やす。友達や身近な人、地域の人々との関わりを通して、自分の思いや考えを表現するとともに、気付きの質を高められるようにする。
音楽	●リズムに合わせて体を動かし、音楽に合わせて身体で表現する力を育成する必要がある。 ●歌唱や器楽演奏の基礎的・基本的な技能の定着に課題があり、技能を身に付けながら、楽しく表現することができる指導を充実させる必要がある。 ●音楽を形づくっている要素に気付き、それらを生かして思いや意図をもって表現する力を育成する必要がある。	○リズム遊びやリズムアンサンブルを積極的に取り入れ、児童が音楽に合わせて体を動かしたり、友達と音楽をつくったりする活動を通して、楽しみながら身体表現する力を育成する。 ○練習の機会を確保するとともに、個別指導や友達同士で交流しながら教え合う時間を設定し、歌唱や器楽演奏の基礎的・基本的な技能を確実に身に付けられるようにする。 ○ICT 機器やタブレット端末を活用し、自分や友達の演奏を聴いたり、演奏を比較したりする活動を取り入れることで、表現の改善につなげる。 ○音楽を形づくっている要素に着目し、表現の意図を考える場面を設定するとともに、様々な表現方法を試す活動を取り入れ、思いや意図を表現に結び付ける力を育成する。
図画工作	●描く、切る、折る、貼るなどの技能に個人差が見られる。様々な用具を適切に扱い、材料の特性を生かして表現するための基礎的な技能を育成する必要がある。 ●発想・構想したことを表現するために、形や色、材料の特性を生かす力の定着に課題がある。 ●児童が興味・関心を高め、意欲的に表現活動に取り組めるよう、課題や学習過程を工夫する必要がある。	○様々な用具の使い方を身に付けられるよう、用具を用いた遊びや体験的な活動を取り入れて確実に指導するとともに、必要に応じて個別指導を充実させる。 ○色のつくり方や材料の使い方について基礎的に学べる課題を設定し、材料の特性や扱い方を試す活動を通して、発想・構想したことを表現に生かす力を育成する。 ○授業に造形的な遊びの要素を取り入れ、児童が材料や用具と主体的に関わりながら、試したり工夫したりできる活動を設定することで、興味・関心を高め、感性を働かせて表現する力を育成する。
家庭	●「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成するため、生活上の課題に対して目的に沿った自分なりの工夫を考え、実践する力を身に付けさせる必要がある。 ●生活に必要な基礎的な技能には個人差が見られるため、児童の技能の習得状況に応じた個別指導や家庭と連携した指導を工夫する必要がある。 ●学習したことを家庭生活に生かし、実践することを通して、生活をよりよくしようとする意欲や自己有用感を高める必要がある。	○学校や家庭での具体的な生活場面を想起させながら課題について考えさせ、励ましの言葉や助言を通して、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行う。 ○調理実習、手縫い、ミシン縫いなどの実践的な活動を繰り返し行い、基礎的な技能の習熟を図る。 ○具体的な素材や生活場面を教材化し、実践的な活動を多く取り入れる。学習したことを日常の家庭生活に生かす方法を具体的に指導し、実践後の振り返りを通して、生活をよりよくしようとする意欲につなげる。

体育	●体力テストの結果から、立ち幅跳びや反復横跳びに課題が見られる。これらの基礎的な動きや瞬発力・敏捷性を高める必要がある。 ●児童一人一人の学習状況や体力に応じた「めあて」をもたせるための支援が十分ではなく、自分の課題に応じて主体的に学習を進めるための場や手だてを工夫する必要がある。	○立ち幅跳びや反復横跳びの動きのポイントを取り入れた多様な運動遊びや活動の場を設定し、楽しみながら基礎的な動きや体力を高められるようにする。 ○児童が自分の体力や技能に応じた「めあて」を選択できるよう、スモールステップを意識した活動の場を用意する。また、タブレット端末や学習カードを活用し、自分の動きや技能、課題を視覚的に把握・分析できるようにする。 ○十分な運動量を確保した上で、毎時間の振り返りの時間を設定し、自分の学習状況や課題を振り返ることで、見通しと達成感をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
外国語・外国語活動	●英語を話すことに対して苦手意識をもつ児童がいるため、安心して英語を使い、コミュニケーションを図ることができるようにするための指導を工夫する必要がある。 ●英語を書く技能に個人差が見られるため、英語を書くことに慣れ、文字や語句を正しく書く力を育成する必要がある。	○単語やダイアログの繰り返し練習を、ゲームやペア活動などを取り入れながら楽しく行うことで、英語を話すことへの抵抗感を減らし、自信をもって発話できるようにする。また、互いに伝え合う活動を充実させ、英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わえるようにする。 ○授業時間だけでなく、朝学習や家庭学習においても英語を書く活動を意図的に取り入れ、繰り返し書く経験を通して、文字や語句を正しく書く力を育成する。